

シーボルト著「日本」に描かれた 考古・民俗資料

会期 / 2012(平成24)年
8月7日(火)～10月10日(水)

医学部時代に医学のみならず、動物学・植物学なども学んだシーボルトは医者と同時に博物学者でもありました。そのようなバックグラウンドをもつシーボルトは、オランダ商館医として長崎に派遣された後、積極的に日本の研究を行いました。その集大成として出版された「日本」は、彼の博物学者としての側面をよく物語っています。ここに描かれた当時の文物や服装は視覚的に当時の様子を知ることができる一級の資料と考えられます。それは、江戸時代の博物館資料と言い換えることもできるのではないのでしょうか。本企画展では、そのなかから考古・民俗資料に焦点をあてました。各資料の特徴が詳しく表現されている一方、その後の研究結果で明らかになった見解とは異なる解釈もあります。そのような面も含めて当時の考古・民俗資料がどのように捉えられていたのかを企画展を通して知っていただければ幸いです。



キョ キョ キョ

博物館実習成果展Ⅳ ギョギョギョ 西南☆海ステリー博

会期 / 2012(平成24)年
9月3日(月)～9月29日(土)

主催 / 西南学院大学博物館
共催 / 船の科学館
海と船の博物館ネットワーク

博物館実習生10名による実習成果展Ⅳは、海の生き物の秘密に迫ります。遊びながら楽しく学ぶことができる展覧会です。

キリシタン考古学 の世界 ―今日に甦る祈りとさげ―

会期 / 2012(平成24)年
10月19日(金)～12月15日(土)

主催 / 西南学院大学博物館
共催 / 一般社団法人日本考古学協会

キリシタン時代の光と影。九州各地で日々挙げられている発掘成果を一堂に紹介し、キリシタンたちが信仰していた実相に迫る。

2012(平成24)年
10/19(金)～12/15(土)

せいなんこどもワークショップ活動報告

2012年度第1回のワークショップ「地球儀をつくろう!」を6月23日におこないました。まず神戸大学海事博物館との共同企画である春季特別展「大学博物館共同企画シリーズⅡ 開かれた島 開かれた海―鎖国のなかの日本―」のギャラリートークで、鎖国がおこなわれていた当時の日本について知ってもらいました。参加者はみな、現在とは異なる航海技術や当時描かれた外国人の絵などに興味をもって見学してくれたようで、なかにはたくさん質問してくれた子もいました。ミニ地球儀のペーパークラフト作りでは、組み立てが少し難しく低学年の子供たちは苦戦していましたが、作成した地球儀を通して日本が海に囲まれた島国であること、海と船とともに発展を遂げてきたことを感じてくれたように思います。また、記念にギャラリートークで大人気だった南蛮船奉納絵馬、南蛮人行列奉納絵馬の塗り絵を配りました。江戸時代に日本人の目に外国人がどう映っていたか、絵馬に込められた人々の願いを考えてもらえたのではないかと思います。



2012(平成24)年

【企画展／特別展】
8月7日(火)～10月10日(水)
シーボルト著「日本」にみる近世NIPPON
[場所] 西南学院大学博物館1階廊下前、2階講堂

9月3日(月)～9月29日(土)
博物館実習成果展Ⅳ ギョギョギョ 西南★海ステリー博
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室

10月19日(金)～12月15日(土)
キリシタン考古学の世界
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

12月20日(木)～2013年5月15日(水)
古写真でみる西南学院Ⅱ
[場所] 西南学院大学博物館1階廊下前、2階講堂

10月20日(土)～10月22日(月)
一般社団法人日本考古学協会2012年度福岡大会
[場所] 西南学院大学チャペル・1号館・2号館・大学博物館

10月31日(水)～11月1日(木)
国際シンポジウム人文系と自然系博物館の教育連携
[場所] 西南コミュニティーセンター、大学博物館

11月17日(土)14:00～16:00
第12回特別展関連公開講演会
「キリシタン考古学の世界」…安高啓明氏(本学博物館学芸員)
「日本におけるキリシタン墓碑の様相―とくに墓碑の編年と分布について」
…大石一久氏(長崎歴史文化博物館研究グループリーダー)
「原城出土のキリシタン資料」…松本慎二氏(南島原市教育委員会文化財課課長)

9月29日(土)10:00～12:00
みんなのせいなん水族館
[場所] 西南学院大学博物館

11月17日(土)10:00～12:00
せいなんウォークラリー
[場所] 西南学院大学博物館

12月1日(土)10:00～12:00
粘土を使った古代のモノづくり
[場所] 西南学院大学博物館

その他、幅広いニーズに合わせて団体見学会等も実施しております。
なお、予定は変更することもございますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

西南学院大学博物館 SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内
開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)
休館日 / 毎週日曜日、夏期休暇(8/10～8/16)
休館日 / キリスト降誕祭[12/25]、年末・年始[12/28-1/5]
入館料 / 無料

海原のロマンを感じた。外国人の絵図が興味深い。当時の絵師の感動と観察の鋭さが面白い。
(2012/6/22 男性 40代)

本校OBとしてこのような素晴らしい博物館や企画展があることが嬉しかったです。卒業してもう30数年、久しぶりに訪れて、なつかしい気持ちでいっぱいです。
(2012/7/12 男性 50代)

西南学院大学97期生です。大阪から来ました。素晴らしい展示でした。また伺いますね。
(2012/8/17 女性 40代)

色々知れた。ひょっとして、このことって、中学の勉強に出てくるのかな。
(2012/8/17 男性 10代)

残暑の厳しいなか、みなさまいかがお過ごしでしょうか。当館では、大学博物館共同企画シリーズⅡ「開かれた島 開かれた海―鎖国の中の日本―」を、盛況のうち終えることが出来ました。ご来館、そしてご感想、まことにありがとうございます。夏休みということもあり、遠方からお越しの方、また小・中学生の方々にも、たくさんご来館していただきました。今後も引き続き企画展、特別展ともに開催される予定です。季節とともに展示風景が変わっていく館内を、みなさまにお楽しみいただけたら幸いです。

博物館臨時職員 Y・A



福岡空港 → 西新駅下車 → 約17分
博多駅 → 西新駅下車 → 約12分
天神 → 西新駅下車 → 約8分
※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分

博多駅バスター → 修験館前 → 約35分
天神 → 修験館前 → 約20分
※修験館前バス停から徒歩5分

福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約25分
博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約20分
天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約15分

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 12 2012.9

西南学院大学



南蛮人行列奉納絵馬
[西南学院大学博物館所蔵]

特集 南蛮文化に想いをはせて… 南蛮人行列奉納絵馬

ヴォーリス建築を求めて① 西南女学院 マロリー記念館

企画展紹介 シーボルト著「日本」に描かれた考古・民俗資料

所蔵品紹介 南蛮人行列奉納絵馬

大学博物館紹介① 立正大学博物館

SEINAN GAKUIN
1920

西南女学院 マロリー記念館

伝道活動、建築事務所、メンソレータム、日本国籍取得。これらの言葉から、みなさまはなにを想像されるでしょうか。実はこれらは当館を設計したウィリアム・メレル・ヴォーリスに深く関係するものなのです。

ウィリアム・メレル・ヴォーリスは、明治38(1905)年に24歳で来日し、83歳でその一生を終えるまで、キリスト教の伝道や建築、製菓といったさまざまな分野で大きな業績を残しました。特に建築の面での功績は大きく、彼が設立したヴォーリス建築事務所は、教会や学校をはじめ、宣教師の私邸など多くの建物を手がけています。そしてそれらは現在でも各地に残っています。

シリーズ第一回目の今回は、西南女学院に残るマロリー記念館をご紹介します。この建物は南部バプテスマの婦人伝道部総主事として活躍したキャサリン・マロリーを記念し、彼女からの寄付によって建てられました。1935年に建てられて以来、学院本部として使用され続けています。学院の顔としての堂々とした姿は、建築当時のまま変わりません。

博物館臨時職員 吉松由希



1~2階部分が礼拝堂となっています



建築当時と変わらない外観

【大学博物館紹介①】

立正大学博物館

立正大学博物館は考古学標本室、考古学陳列室を前身として、大学創立130周年を記念し2002年に熊谷キャンパス内に開館しました。考古学研究室発掘資料、撫石庵コレクションをはじめとする仏教考古学資料を中心に、国内は旧石器時代から平安時代に至る様々な遺物、海外はネパールティラコット遺跡出土資料、サハリン出土資料など多種多様な考古資料が展示されています。2006年に伝櫃原市出土梵鐘(平安時代)が復元され、貴重な資料の音色を楽しむことができます。

年2回の特別展・企画展、講演会に加えて、博物館実習もおこなわれています。これまでに仏教学部の卒業制作展が開催されているほか、2008年度から他の校舎の学生にも展示を見られるよう、移動校舎展示もはじまっています。



また、「博物館案内」や館報「万吉だより」などの刊行物も多く発刊されており、大学における教育・研究の発展の場として活用されています。

博物館GP研究員 貞清世里

開館日/月・水・木・金・土(大学休業中を除く)
開館時間/10:00~16:00
連絡先/〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700 TEL 048-536-6150
URL <http://www.ris.ac.jp/museum/>

所蔵品紹介

南蛮人行列奉納絵馬 南蛮文化に想いをはせて…



上陸した
カピタン・モール



出迎える修道士



行列をのぞく女性

この絵馬は南蛮人行列と、これを出迎える修道士たちを描いたもので、社寺に奉納されていたものです。鎖国体制確立前、キリスト教の布教が自由だった時代を描いた本資料は、南蛮屏風の一部であることは一目瞭然です。その原本は南蛮文化館が所蔵している南蛮屏風と極めて酷似していることがわかります。

傘下で手をあわせているのがカピタン・モールで、二匹の犬を連れてます。随行者が椅子をもっていたり、出迎える修道士が眼鏡をしている様子。さらには暖簾から行列を覗いて

いる女性、さらに家紋までも一致しています。

原本の屏風は南蛮文化館に所蔵される前、大阪府堺市の旧家にありました。いつこの南蛮屏風をみて絵馬に模写したのか時期特定を試みなければなりません。また、南蛮人の行列を描いた絵馬を社寺に奉納することも皮肉なところですが、困窮した状況からの現状打破を願っていたのでしょうか。南蛮文化の華やかだった時代に想いを馳せた当時の人々の姿がわかります。

学芸員の眼 — 2012年度博物館実習 —

本年度は10名の本学学生が実習に参加しています。一年に一度やってくるもはや恒例になっていますが、学芸員の初心にかえる大切な時期になっています。熱心な学生の質問を受けるたびに、学芸業務の素晴らしさを感じます。決してルーチンとはいかない職業ではありますが、責任をとる重要な仕事に日々あたっているんだと再確認し

ています。まだ三十代前半で学芸員としては若年層になりますが、博物館界のためにも学芸員の卵たちを責任もって育てていかなければならないと強く感じています。特別展業務と同時平行での博物館実習で大変ですが、若いエネルギーをもらえる良い期間になっています。

博物館学芸員 安高啓明



美術品のお引っ越し

日本通運長崎支店の皆さまのご指導のもと、美術品の梱包実習を行いました。

陶器

陶器のくぼみを埋める。



すれないように
しっかり巻く。



上手く
包んでよ

完成!



これで誰も
ぶくを傷つけ
られない!!

額面がガラスかアクリル
が見極める。



絵画をクラフト紙、白薄葉紙の
順に包む。



これで内装が完成!



段ボールで絵画の箱を作る。



段ボールを切って組み立てて完成

寸法を取る際は初めが
肝心! 採寸を間違えると
大変なことに。

今回の梱包実習、
貴重な体験でした!!

高橋 一冬/吉村 藍/渡邊 紋子
細川 弥生子/中野 亜樹

次の日、私たちだけで
箱を作ってみました。



安高先生の
評価は…

